第１回　支援証明書モデル的試行ワーキンググループ
議事要旨

開催日：令和５年９月 25 日（月）
場　所：永楽オフィス F24 B-01 + Web 会議（Cisco Webex Meetings)、一般傍聴なし
出席者：委員　　：浅野、幸福、富田、原口（座長)、松山

【議題】

(1) 委員紹介
(2) マッチングの試行及び支援証明書モデル的試行 WG の進め方について
(3) 意見交換
　論点①：マッチング試行の実施方針について
　論点②：マッチングの実施方法について
　論点③：ＷＧにおける論点（アウトプット）と進め方
(4) 事務連絡

【資料】

・　支援証明書モデル的試行ワーキンググループ設置要綱
・　議事次第
・　資料１ 支援証明書モデル的試行ＷＧ（委員名簿）
・　資料２ マッチングの試行及び支援証明書モデル的試行 WG の進め方について
・　資料３ 自然共生サイトと支援者のマッチング（支援者向け）募集要項
・　資料４ 自然共生サイトと支援者のマッチング（自然共生サイト向け）募集要項
・　資料５ 認定活用を検討する希望者向けの案内文

【WG でいただいた主なご意見等】

■　**支援の定義について**
　・ マッチングの対象となる支援は狭義の寄付に限定する必要はなく、投資、融資、販売を含めた広義の支援で良い（経済的リターンとの紐づけは考慮不要)。

■　**制度全体の設計について**
　・ 全体の仕組みの中で、どこまでできて、どこから先はできないという考え方ができる。最低限、自然共生サイトで実際に活動が行われる追加性の部分を証明すること。
　・ 国の政策や地域戦略との整合性を考慮すべき。
　・ マッチングの仕組みにより、30by30 と民間のファイナンスをつなげて、地域の資金需要に応えられる制度が作れれば、皆が動きやすい。

■　KPI の設定について

・　KPI をどう設定するか、海外事例をどう当てはめるかを検討した方が良い。
・　TNFD メトリクスを支援証明書に紐づけることができるかを検証すべき。
・　国や地方公共団体の目標に対して、グローバルに開示できるような KPI でインパクトを測るという制度を国が作れば、民間主体で活動しているとしても、その方針に従うことによりその活動の正しさをそれぞれが証明する必要はなくなる。

■　正しい支援である事の保証について

・　環境省が第 3 者として、保全活動の○×を付けることが重要。(正しい活動である事を担保)。
・　環境省が金銭のやり取りの仕組み・枠組みを担保する必要がある。

■　その他のご意見

・　自然共生サイトの認定証の有効期間である 5 年間が適切か否かを議論する必要性がいずれ発生する。
・　価値を明確に按分できない自然共生サイトという仕組みで、二重遡及はどこまで許容されるかを検討する必要がある。
・　自然共生サイトの認定証に記載する自然資本の価値をストックで評価するのかフローで評価するのかという問題が残る。
・　第 3 回 WG までにマッチングの組み合わせは事務局で確定し、第 3 回 WG でも中身の議論をできたほうが良いを考える。
・　経済的リターンと社会・環境へのインパクトを切り離して、ポジティブインパクトを評価すべき。
・　カーボンクレジットの仕組みを取り入れながら、議論できると良い。
・　追加性の捉え方がカーボンの世界とは異なる。
・　ストックでの評価は難しく、年間当たりのフロー評価を行うことになると思う。
・　TNFD のどこの話なのかは明らかにしたほうが良い。(ガバナンスの話もあるし、シナリオ分析の話もある)

以上